

宮古労働基準監督署

・建設業安全講習会（専門業者）

～人手不足だからこそ安全対策を～

県内の建設業における災害が増加していることを受け、宮古労働基準監督署と建設業労働災害防止協会沖縄県支部宮古分会は、10月22日に建設業安全講習会を開催し、26人の専門業者などが参加しました。

監督署からは、災害発生状況、災害事例、安全対策について説明があり、分会からは、現場体験発表がありました。

現場体験発表では、

- ① 課題として、建設業では、「1より良く、2より安く、3より早く、4より安全に」が求められている。言い換えれば「1品質管理、2コスト管理、3工程管理、4安全管理」である。安全管理は、目に見えた分かりやすい評価が難しい。実行予算を削減するときは、安全管理が先となるのが現状である。現場指導しても安全対策費が無いと言われる。最近建設の現場があっても人がいない。
- ② 作業において「楽」には危険が伴う。安全対策では、楽をしないように。
- ③ 現場で挨拶をしても返さない人がいる。コミュニケーションは重要で、安全対策にもつながる。
- ④ 仕事は辛くて厳しいからこそ、楽しい現場にしたい。
- ⑤ 誇りをもてる現場にしたい。

などの話がありました。

9月末の建設業の休業4日以上の死傷災害は、県内が131件（前年比+26件）と増加しています。また、宮古地区においては5件（前年比+5件）と、前年「ゼロ」から大きく増加しています。また、今後の専門業者の職人の人材不足により安全衛生対策への支障が懸念されます。

